

## 医学系研究科（保健学専攻）

### 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー

#### 【教育目標】

大阪大学の教育目標を受けて、医学系研究科保健学専攻博士前期課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。さらに博士後期課程では、知的リーダーシップを発揮できる保健学・看護学・医療技術学の高度医療者・研究者の育成を図ります。高度な専門性と知性は机上の学問からだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しから身に付きます。そのためには自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけようとする姿勢が重要です。さらに臨床、研究の両面においてチームワークを形成することが必要です。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にすることが重要です。保健学専攻博士課程では、入学までに養って来た教養と深い専門知識を十分に活かして発展させるとともに、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。また、新しい研究分野を開拓できるデザイン力や、今後の国際社会におけるリーダーシップの育成にも務めます。

#### 【ディプロマ・ポリシー】

保健学専攻では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的にも重要な多彩な研究分野があります。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、医学系研究科保健学専攻の博士前期課程では、以下の学生に学位を授与します。

1. 医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている。
2. 研究テーマは学問の府たる大学としての自主性、独創性がある。研究の視点として理論と実証の両面を備えている。
3. 課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指している。
4. 国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している。

博士後期課程では、以下の学生に学位を授与します。

1. 医療科学の領域における問題発見・設定能力があり、自ら研究をデザインでき、研究の完結が可能である。
2. 研究課題には世界的新規性があり、臨床応用への展開、他分野と融合した新しい医療科学の創生や、未来医療を開拓することができる。
3. 高い倫理性と強い責任感を備え、社会的視点を持ち、国際学会・国際専門誌でも研究を公表できる。
4. 医療科学における国際連携の中でリーダーシップを発揮でき、後進の指導や社会的な活動などを通じて医療科学の社会的発展を推進することが望まれる。

## 【カリキュラム・ポリシー】

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、

(1) 医学系研究科保健学専攻の博士前期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、医療現場における課題を患者家族および社会的な立場から理解するとともに、多彩な視点から問題解決をデザインできる力を養います。本研究科をはじめ、専門領域において世界最先端の連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座から提供される医学、工学、人文科学にわたる専門的な科目、他学部・他研究科の科目も履修できます。国内外の医療機関、研究機関での研修も単位として認められます。修士論文の作成は、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養を目指しています。

(2) 博士後期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、高い倫理性と強い責任感を持ち、保健学、看護学、医療技術科学領域において独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究チームリーダーとして研究組織を牽引できる力を養います。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合研究を積極的に推進し、一方で萌芽的研究や小さなシーズ研究を大切にす柔軟な思考と吸収力、広い視野が必要です。他学部・他研究科の科目の履修をはじめ、専門領域において連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座における研究、さらに海外の大学での研究も可能です。また、リサーチアシスタントやシニアティーチングアシスタント制度により、学生や後進に対して研究指導できる能力を育成します。

## 【アドミッション・ポリシー】

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、保健学専攻博士前期課程では、これからの日本、そして世界における保健・医療・福祉のさまざまな課題を、リサーチマインドをもって探求、解決に努力する、臨床実践者、臨床科学技術者、研究者、教育者を目指す人を求めています。医学分野だけでなく多様なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことにより、画期的な発想が生まれ、高い専門性と豊かな人間性が培えると考えます。医療専門職としてチーム医療や地域医療でリーダーシップをとることができる人材や、保健医療科学の研究者として研究開発を行う人材には、広い視野と柔軟な理解力が必要であり、基本的な英語力は必須です。急速に高齢化が進むわが国で、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人、新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人を求めています。

博士後期課程では、保健医療科学の分野で、グローバルな知識を持ち、国際的なリーダーシップを発揮できる研究者の育成を目的としています。そのためには、豊かな語学力とともに、新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく能力、自らの専門分野にとどまらず他領域との融合による新たな展開を図る能力など、高度のデザイン力が必要とされます。また、保健・医療・福祉の研究では高い倫理観を持つことも大切です。医療界のみならず産業界からも期待され、将来の保健医療福祉分野において国際的な貢献を目指す、多角的な視野を持つ人を求めています。